

## 平成 27 年度第 1 回全国健康保険協会京都支部評議会 議事概要

- 開催日時 : 平成 27 年 7 月 22 日 (水) 14:00~15:50  
開催場所 : 第 8 長谷ビル 8 F 貸し会議室「E」  
出席評議員 : 片田委員、大杉委員、中村委員、橋元委員、政田委員、増井委員、宮本委員  
(※五十音順)  
事務局 : 矢田支部長、山上企画総務部長、田中業務部長、近藤グループ長、前田グループ長、福地グループ長、吉本グループ長  
議題 : 1. 平成 26 年度事業報告  
2. 平成 26 年度決算及び支部収支差  
3. 平成 27 年度事業の進捗について

### 議事概要

#### 1. 平成 26 年度事業報告

(意見なし)

#### 2. 平成 26 年度決算及び支部収支差

##### 〈 主な意見 〉

【評議員】(事業主代表)

収入・支出の伸びの要因は、被保険者数が増えたことと説明がありましたが、その原因分析はどうですか。

【回答】

経済は良くなって、雇用・給与環境も良くなっていることもありますが、健康保険・厚生年金保険の適用業務をもつ日本年金機構による未加入事業所への適用促進が進んでいることなども一因と考えております。

【評議員】(事業主代表)

増えた適用事業所数と被保険者数をみると、10 人未満の事業所の適用が増えており、未加入であったところが加入となったのだと思いますが、潜在的な未加入事業所の数はどの位ありますか。

【回答】

数は把握しておりませんが、日本年金機構の方針としてはこれからも促進していくと思われれます。

**【評議員】（事業主代表）**

事業所の適用促進の結果として、保険料収入は上がったということですが、28年度保険料率を見込む際には、この伸びをどう反映させるのか、今回の決算でもかなり大きな数字が動き、収支に影響しております。実際、ベースアップする企業もあるようですし、被保険者数が大きく作用するのであれば、潜在的な未加入事業所の分析をして、適用の拡大につなげていくことも必要、という印象を持ちます。

### **3. 平成 27 年度事業の進捗について**

#### **〈 主な意見 〉**

①地域医療構想

**【評議員】（事業主代表）**

2025年に必要な病床数は、医療機関の機能を現在のまま分化しない場合152万床で、分化（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）すると115～119万床と政府推計が出ていますが、機能分化すると、なぜ減るのでしょうか。

**【回答】**

現在の病床区分は、「一般」「療養」しかありませんが、今後は、例えば、在宅医療を目指した「回復期」を作るなどして、在宅医療や介護施設へのスライドを想定し、病床の機能を細分化して、数を振り分けていくと、必要な病床数は現状より圧縮されるという推計になっております。

**【評議員】（事業主代表）**

介護施設を受け皿にすることを、並行して進めていくということですか。

**【事務局】**

そうなると思います。介護計画については、別途、京都府で「介護保険事業支援計画」が策定されます。そちらとも連携をとりながら、この地域医療構想を進めていく形になっていくと思われれます。

**【評議員】（学識経験者）**

医療関係者だけでなく、加入者の利益実現のために、加入者の立場でどんどん意見発信いただきたいと思います。

また、高齢化が進むなか、普通であれば必要な病床は増えていくところを、逆に減らして在宅医療に切り替えていくということですが、看てもらえない人がいない単身の高齢者や高齢の夫婦が介護しながらでは、通院できないケースも多くあります。

国は、在宅医療・介護とっていますが、サービスがどこまで確保・

機能するのか、結局はサービスの低下に繋がっていかないかと心配です。  
こうした実態を踏まえながら意見を言っていたきたいと思います。

**【回答】**

そのような意見も、各方面から出るものと考えております。議論の動向については、逐次報告させていただきます。

②データヘルス計画の進捗

**【学識経験者】**

血圧測定機を設置している事業所はあるのですか。

**【回答】**

事業所によっては、血圧測定機を購入しているところもありますが、「血管年齢」測定機はないと思われます。この機械は、イベントでは行列ができるほどの人気です。医療機器ではありませんが、自分の体の状態が手軽にわかることが特徴で、“きっかけづくり”として活用を進めているところではあります。

**【被保険者代表】**

私は、毎年健診時に血管年齢を測定していますが、実年齢よりも血管年齢が高く出ても、どうしたらいいのかが分かりません。結果に対するフォローがあればいいですね。

**【回答】**

事業所へ設置する際には、測定場所にチラシを用意し、血管が固くなることでの健康リスクを感じてもらおうようにしています。

協会保健師が職場に伺い特定保健指導を行っておりますが、受けた方の約3割が改善しております。

本当は、健診結果に基づいて保健師等が丁寧に説明していきたいのですが、支部の実情として「マンパワー不足」と4万もの事業所があるため、難しい状況です。その中で、自分の体の状態に目を向けてもらうために、この機械がその一助になればと考え、現在進めている事業です。

この機械で1か月300人位の方々に利用してもらえればと考えております。

以上